

中将姫

747年〜775年と伝承。

藤原豊成の娘。

當麻寺に伝わる天平時代の伝説上の女性。



天平時代、中将姫は藤原家の娘として生まれました。大変美しい娘でしたが、母の死後は、継母に妬まれて辛い日々を送ります。しかし、姫はそれを恨むことなく、人々の安らぎをひたすら願って写経に専念しました。1000巻の写経を

達成した16歳のある日、二上山に沈む夕日の中に仏の姿を見ました。仏に手を引かれるように當麻寺を訪れ、出家して尼僧になりました。さらに阿弥陀如来と観音菩薩の導きにより、5色の蓮の糸で織物を織ります。5色の輝きが姫の心を救い、その後も彼女は人々に現世浄土を説き続けたと伝わっています。その織物が、當麻寺の本尊、国宝「當麻曼陀羅」です。功德を積んだ姫は29歳のとき、念願の極楽浄土へ旅立ちました。

當麻寺以外にも姫ゆかりの場所があります。奈良市の誕生寺は父藤原豊成の邸宅跡に建ち、中将姫が生まれたとされる尼寺です。父娘の墓が残る徳融寺も奈良市内にあります。心やさしい姫の伝説は中世から近世にかけて、能や浄瑠璃、歌舞伎の題材になりました。世阿弥の謡曲「雲雀山」の舞台となった宇陀市の青蓮寺は、姫が建立したとされる寺です。

今も昔も人々に愛される中将姫。葛城市のマスクットキャラクタ―「蓮花ちゃん」は、そんな姫をイメージして生まれました。蓮を名前に持ち、平成の中将姫と親しまれています。

當麻寺



本尊は當麻曼陀羅、天平の香りに満ちた西方浄土信仰の篤い古寺。

當麻寺は白鳳時代（天平）の創建といわれる古刹です。金堂、講堂など数多くの建造物が残されていますが、なかでも白鳳時代創建の東西の三重塔は、当初からともに残っている例として日本でもここだけという貴重なものです。

中将姫が一夜で織り上げたという本尊「當麻曼陀羅」に象徴されるように、當麻寺は西方浄土信仰が盛んで、本堂は東向きに建ち、二上山を背負うかたちになっています。山の向こう、夕日が沈む彼方に、極楽浄土があると信じられていたのです。お練り供養や牡丹でも知られる當麻寺ですが、もう一つユニークなのが金堂を守る四天王です。ひげを生やした珍しいお姿は「ひげの四天王」と親しまれ、創建の頃の大陸の香りをいまに留めています。



■所在地
〒639-0276 葛城市當麻1263
TEL.0745-48-2008 (代表)
■交通
近鉄當麻寺駅から徒歩 1km
駐車場無近隣民間駐車場30台・有料)

松永久秀

1510年〜1577年。
山城国（現・京都府）あるいは摂津国（現・大阪府）生まれ。大和信貴山城主。



松永久秀の出生については、詳しいことはよくわかっていません。彼が歴史舞台に登場するのは、三好長慶の家臣として仕えてからです。当時京都で権力を握っていた三好長慶の元で、武将としての才能を開花させていきます。

1559年、長慶の命で信貴山城を築城。以降、郡山城攻落を皮切りに、大和の城を次々と攻めていきます。1562年には現在の奈良市法蓮町の高台に多聞城を造営し、大和を支配します。河内国を抑える信貴山城と大和国北部を抑える多聞城。久秀はこの2つの城を行き来し、大和国の制圧に成功したのです。

長慶の死後は、その一族の三好長逸、三好政康、岩成友通ら三好三人衆とともに、畿内勢力を握り、將軍足利義輝までをも暗殺します。しかし、三人衆と決裂後の1567年、東大寺に布陣する三人衆を攻撃して、東大寺大仏殿を焼失させてしまいました。

1568年、織田信長が入京すると、彼に降伏。1572年に武田信玄により信長が包囲されると信長を裏切り、信玄死後は再度信長に降伏。その最期は、信長の命に反して信貴山城に籠り、信長軍の焼き討ちに合い自害したのです。

久秀には築城のセンスがあったようです。防衛能力の高い信貴山城の築城ノウハウは、信長の安土城にも生かされたと言われています。

信貴山朝護孫子寺

阪神タイガースの選手たちもお参りに来る、寅に縁が深い戦勝加持の寺。



戦国時代には、寺の近くに築かれた信貴山城が、織田信長の焼き討ちに合ったため、伽藍が全て炎上してしまいました。その後、豊臣秀頼によって寺は再建されたといわれています。

信貴山朝護孫子寺は、信貴山山腹にあり、寅と縁が深いお寺です。参道を進めば、大きな張り子の寅が出迎えてくれます。寺伝によれば、聖徳太子が物部守屋を伐つ時に、信貴山で戦勝を祈願したところ、毘沙門天が現れ、太子に知恵を授けたそうです。太子が毘沙門天を感得したのが、寅年、寅日、寅刻であったことから、毘沙門天と寅を祀る寺になりました。また、信貴山山頂には「信貴山縁起絵巻」で知られる、空鉢護法堂があり竜神を祀り、一願必成就の神様として信仰を集めています。



■所在地
〒636-0923 生駒郡平群町信貴山2280-1
TEL.0745-72-2277

■交通
近鉄信貴山下駅から信貴山行・三室園東口行きバスで約12分。
信貴山下車、徒歩500m
駐車場有(50台・有料)

聖徳太子

574年～622年。
用明天皇の皇子。
飛鳥時代の政治家。



聖徳太子は日本人に最もよく知られている歴史上の人物の一人です。593年、叔母の推古天皇の摂政となり、その地位を29年間務めました。

603年の冠位十二階の制定により、家柄に縛られず、個人の能力を尊重して地位が決められるようになりました。さらに604年には日本最初の成文法となる十七条憲法を制定。第一条に「和を以て貴しと為す」とあるように、現代の憲法とは異なり官人や貴族の道徳規範を示したものでした。聖徳太子は、儒教や仏教の思想を取り入れながら、天皇中心の中央集権国家を目指したのです。また、外交では隋に遣隋使を派遣して、大陸文化を採り入れることに努めました。

旧1万円札に印刷されていたことから、その姿も日本中で大変馴染みがあります。名前もすっかり有名ですが、実は「聖徳」は彼の死後に用いられたもので、生前は厩戸皇子と呼ばれていました。明日香村にある橘寺で生まれ、622年2月22日、斑鳩宮で亡くなりました。墓は大阪府南河内郡太子町の叡福寺にあります。ゆかりの地が多い聖徳太子ですが、最も有名なのは彼が建立した世界最古の木造建築、世界遺産の法隆寺です。

八世紀になると聖徳太子は日本の釈迦と慕われるようになり、太子の伝記や絵伝は多数残されています。

法隆寺

世界最古の木造建築は日本初の世界遺産、大陸雲間気ただよう聖徳太子の寺。



聖徳太子が父である用明天皇の遺志を継いで、607年に建立したと伝える法隆寺。古刹が並び建つ、斑鳩を代表する寺院です。

創建当時の若草伽藍は670年に全焼しましたが、その後、飛鳥時代の様式を巧みに取り入れて、現在の伽藍が再建されました。世界最古の木造建築群として世界遺産にも登録され、日本最古の五重塔や八角円堂の夢殿、エンタシスの柱が連なる回廊など、その堂々たる風格は大陸伝来の仏教を感じさせます。さらに百済観音や救世観音などの仏像や工芸品の数々など、境内には国宝・重文クラスの寺宝がまさにひしめき合っています。

南大門前の銅石や五重塔相輪にかかる鎌など、寺の七不思議とも相まって、法隆寺はいまなお多くの人々を魅了しています。



■所在地
〒636-0115
生駒郡斑鳩町法隆寺山内1-1
TEL.0745-75-2555
■交通
JR法隆寺から徒歩1.5km
駐車場無
(近隣町営駐車場60台・有料)

富本憲吉

1886年～1963年。
奈良県生駒郡安堵町生まれ。
陶芸家。



近代陶芸の巨匠富本憲吉は1886年、生駒郡安堵町の地主の家に生まれました。東京美術学校（現東京藝術大学）図案科に進み、卒業を間近に控えた1908年の暮れにはロンドンへ行き、約1年間の間、自由に美術を学びました。帰国後は陶芸家のイギリス人バーナード・リーチとの親交を通して、自身も陶芸の道に進みます。

故郷の奈良の自宅に窯を築いて楽焼らくやきを始めますが、やがて東京へ移って本格的に作陶を開始。白陶、染付、色絵などの意匠や造形を凝らし、なかでも色絵磁器では模様も豊かで変化に富んだ独自の世界を表現しました。1946年からは京都に活動の場を移します。京都では、色絵に金銀彩の装飾を加えた豪華な装飾の作品を生み出しました。1949年京都市立美術大学教授に就任、1955年には色絵磁器で第一回の重要無形文化財保持者に認定され、人間国宝になります。生涯にわたり自らの美意識を信じた富本は「模様から模様をつくらず」を信念として、写生に基づくオリジナルの文様を創作して作品に生かしました。

1961年には文化勲章を受章。1963年に亡くなりましたが、「残された作品をわが墓と思われたし」と記された遺書を尊重し、安堵町の生家を整備して富本憲吉記念館が開設されました。記念館には、彼の陶器や絵画などの作品・資料を収蔵展示しています。

富本憲吉記念館

江戸時代の和風建築や大正時代の土蔵を残す、生家を利用した美術館。



富本憲吉記念館は生家を改装し、1974年に開館しました。人間国宝・富本憲吉の作品を間近にできるだけでなく、その人生を育んだ生家に触れることで、彼の人となりまで感じられるような温かみあふれる美術館です。

展示室は大和の伝統的な民家のつくりを取り入れて新築した本館と、土蔵などの建物に分かれ、特に狭い階段のある土蔵は味わいのある空間です。またお気に入りの離れ屋も見学することができます。常設展は大和と東京と京都時代と時代を追うかたちで構成され、作風の変遷を

追いながら鑑賞することができます。館内に展示されている陶芸作品には、田園風景やかわいらしい花柄などを描いた初期のものが多く、彼が愛した故郷の風景はその作品の中に生き続けています。



■所在地
〒639-1061
生駒郡安堵町東安堵 1442
TEL.0743-57-3300
■交通
JR法隆寺駅から徒歩2km
駐車場無(安堵町歴史民俗資料館
駐車場8台・無料)

大津皇子

663年～686年。
天武天皇の第3皇子。



大津皇子は天武天皇と天智天皇の娘の大田皇女の間に生まれた皇子です。皇位継承の争いに巻き込まれて、わずか24歳で命を絶たれた悲劇の皇子として知られています。

幼い頃から学問を好み、武芸にも長けていた大津皇子。母を早くに亡くしましたが、その才能から父の兄にあたる天智天皇にも大変かわいがられました。

672年、壬申の乱が起こると、大津皇子は近江京を脱出。その後、都は飛鳥に戻り、即位した父の元で大津皇子は太政大臣となります。天武天皇にも才能を認められて政治に参加する大津皇子。しかし彼のまわりには、天武天皇第1皇子で後の持統天皇を母に持つ異母兄弟、皇太子草壁皇子との皇位継承を巡る政治的野心が渦巻いていました。

683年に天武天皇が亡くなると、大津皇子を悲劇が襲いました。それは天皇崩御の翌月のこと、皇太子への謀反を企てたかどで大津皇子は捕えられてしまうのです。大津皇子は自邸で自害。彼の死を知り、裸足で髪を振り乱して駆けつけた妃の山辺皇女もあとを追って殉死してしまいました。

大津皇子は今、二上山の雄岳頂上付近の墓に眠っています。

ももつたふ盤余の池に鳴く鴨を今日のみ見てや雲陰りなむ
詩才にも優れた皇子が詠んだ辞世の歌が残されています。

二上山



なだらかな山の背に沈む赤い夕日。
悲劇の青年・大津皇子が眠る万葉の名所。

うつそみの人なる我や明日よりは二上山を弟背と我が見む(巻2:165)

この歌は、大津皇子を二上山の山頂に改葬したとき、姉の大来皇女が詠んだ万葉集にある歌です。この歌によって、二上山は大津皇子とゆかり深い山として知られるようになりました。

奈良県と大阪府の境に位置する二上山は、かつては火山であり、石器に用いられたサヌカイトの産地でもあります。標高517mの雄岳と474mの雌岳とからなり、古来より神聖な山として人々に崇められてきました。雄岳の頂上には葛木二上神社が祀られており、その近くには大津皇子の墓所があります。雌岳は眺望が素晴らしく、西は大阪平野や大阪湾、東は大和盆



■所在地
奈良県葛城市、
大阪府南河内郡太子町
TEL.0745-48-2811
(葛城市観光協会)

■交通
近鉄上ノ太子駅・二上山駅・二上神社口駅・当麻寺駅から徒歩、二上神社口からは徒歩約2時間
駐車場無